

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
湊上 勇次郎			

授業のねらい（概要）	<p>経済学はすぐれて現実分析的で実践的でなければならないと思われるが、現状の諸問題に対してどのように立ち向かい解決策を提示することができるのか常に問われている。次々と新たに生じてくる諸問題に決まりきった処方箋は、あらかじめ用意されているわけではない。やや誇張して言えば、経済学ほどわれわれの生活に密接に関連した論争的な領域は他にないであろう。</p> <p>本特論では日本経済や国際経済の現状との緊張関係を保ちながら、今日的課題・論争点を明らかにしていく。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の新しい展開 <ol style="list-style-type: none"> ①ケインズ派 ②新自由主義など 2. 市場経済と情報化 <ol style="list-style-type: none"> ③デジタル経済・ネットワーク経済 ④金融システム・金融政策 ⑤第4次産業革命（AI、IoTなど） 3. 市場経済のシステム <ol style="list-style-type: none"> ⑥企業と労働 ⑦公共経済(財政)との関連 ⑧ホスピタリティとの関連 ⑨シェアリングエコノミーとは ⑩ベーシックインカム制度 4. 持続可能な経済システム <ol style="list-style-type: none"> ⑪国際経済と地域統合 ⑫資源・エネルギー問題 ⑬環境問題 ⑭企業と文化—経済システムの歴史性と国別性格 ⑮世界経済の持続可能性を探る <p>予習（時間）：毎回、学習内容と関連する論争点や問題点を調べておくこと。（毎回、120分以上）</p> <p>復習（時間）：つねに学習の内容と現実の経済問題との接点を探し出して研究し、理解を深めていく。（毎回、120分以上）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	この授業では、本大学院のDPに基づき「実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な教養」「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、文化の進展に寄与することができる」能力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1現代経済学の全体像の把握。 2経済学説の歴史的な位置付けの理解。 3現代の経済学における課題と論争点の理解。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	提出課題は、チェックしたのちに返却する。
履修上の注意	授業中に指定した参考文献・資料については、その都度必ず予習してくること。
成績評価の方法・基準	主に授業での報告内容、討論への参加状況に基づいて評価する。
教科書	
参考書・教材	

備考	講義科目
教員との連絡方法	メールによる。アドレスは授業のとき、案内します。